

第 62 回 歴史リレー講座「大和一国の大祭 884 年続く春日若宮おん祭」 花山院 弘匡氏 (R1.11.17)

先ごろ新天皇即位に伴う大嘗祭の儀式が厳かに執り行われました。私が宮司を務める春日大社にて天皇陛下から賜った幣饌料へいけんりょうが供えられて、当日祭が挙行されました。もともと春日大社は天皇家とゆかりが深く、1200 年近く続く春日祭は天皇陛下の遣いによる三勅祭（ほかに葵祭、石清水祭）のひとつです。一方、おん祭は春日大社の若宮御殿造営の翌年（1136 年）から脈々と続く冬の大祭。春日祭に引けを取らない祭をと願った藤原忠通により創始されました。神仏習合信仰が盛んなころ、大和国は春日の神領、治は興福寺と言われていました。実際に支配していたのは各地の地侍（在地領主）であり、領主は春日興福寺に領地を寄進することにより守られました。これがおん祭が「大和一国の大祭」と称される所以です。

春日大社は国家国民の安寧を祈る神社であると同時に関白藤原氏の氏神です。藤原氏から預かっている神社なので神職の最高職は「預職」でした。若宮様は平安時代（1003 年）に御本殿の女性の神様からお生れになりました。父君は天照大御神様の岩戸隠れ神話のなかで活躍した御本殿第三殿の天兒屋根命様あまのこやぶのみこと。母君は御本殿第四殿の比売神様で、平安時代から千年近く、天照大御神様（鎌倉～江戸時代には伊勢神宮内宮でも天兒屋根命様あまのこやぶのみことは一緒の合殿）と同一神でした。すなわち、若宮様は天照大御神様の御子神様でもありました。

その若宮様に御殿が造られた保延元年（1135）。当時、長雨による飢饉のため疫病がはやり、多くの民衆が犠牲になりました。この事態を見かねた元関白藤原忠実たごみは若宮様の御殿を造っておすがりせよとの命令を下し、鳥羽上皇も同調されました。御殿は預職が見た不思議な夢のお告げに従って無事完成。その翌年から国家安寧を祈って現在まで途切れることなく続く祭がおん祭です。

明治時代になると国家は神道を保護し、多くの神社が国家に管理となり、春日大社は官幣大社となりました。社家制度は解体され、すべての神職は一度解雇、12 人のみの神職が採用されました。それま

での社家の神職 500 人、家族を含め 2000 もの人々が社家町で暮らせていた繁栄からすると少し寂しくなりました。

明治政府は天皇陛下の御旗のもと薩長連合により作られました。それまでは 600 もの藩がそれぞれの国であり、日本という一つの国家観は無く、世界に開国した日本には世界の中の日本国であるとの考えが必要でした。天皇陛下を中心に国家をまとめ、村々全ての神社を天照大御神様を祭る伊勢神宮の元に繋がるという形で日本人を一つに繋げました。そして明治政府は神仏分離政策を進め日本を仏教伝来（6 世紀）以前の神道体制に戻そうとしました。このため、「平安時代から千年近くの間、春日の比売神様と天照大御神様は同一神である」と官幣春日大社は言わなくなりました。春日大社の大宮（御本社）と若宮はそれぞれが御本社でありましたが、政府の御本社は一つであるとの命により、若宮は御本社の下の摂社格になってしまいました。

戦国時代以前、京都から 2000 人の行列を組み天皇が勅使を遣わす春日祭に対して創始されたおん祭は、12 月 17 日午前零時、若宮様が御殿を出られ、遷幸の儀の行列は松明で清められた参道を過ぎ御旅所の御假殿へ。そして深夜 1 時からは暁祭、祝詞の奏上に引き続き巫女が神楽を奉納。そして翌正午から行われる奈良市街を一周する華やかな 1000 人、馬 50 頭のお渡り式は観客の目を奪います。途中、神様のご降臨された影向松の前では松の下式が行われ、猿楽、田楽が奉納されます。能舞台に描かれている松はこの松であります。参道では競馬や稚児流鏝馬、大名行列も行われます。御旅所祭の始まりは埒明けの儀であり、「埒が明かない」という言葉の語源です。宮司、日の使の祝詞奏上のあとは 8 時間に及ぶ神事芸能奉納の始まりです。巫女の神楽、子供が舞う東遊、田楽、おん祭だけに残る細男（日本最古の舞）、能の神道版である神楽式、和舞、インド・中国からシルクロード経由で伝わった舞楽を 11 曲、時に勇壮で時に優雅で神秘的な所作はまさに圧巻としか言いようがありません。そして午後 10 時 30 分、若宮様は遷幸の儀の行列で若宮御殿にお帰りになられ、最後に若宮で神楽が奉納されます。24

時間に渡り御旅所へ御旅行され、楽しまれてお力を付けられ、人々を御加護されるお祭です。若宮御殿から御旅所への行きの遷幸、帰りの還幸の御様子は日本最古最高の神遷しであります。古代から平安時代までの伊勢神宮の御遷座の形が唯一残っているものです。

おん祭は人々の幸せと五穀豊穰を願い、884年間もの間途切れること無く連綿と続いてきました。国重要無形民俗文化財であり、歴史的文化的に見て日本最上級の祭であり、これからも変ること無く続いていきます。